

ささやま医療センター、県立3高校の存続を



市民の
負担減らし
くらしやすい
丹波篠山を

プロフィール

1950年丹波篠山市小原生まれ
篠山鳳鳴高校・神戸大学教育学部卒業
市議4期・民生福祉常任委員会副委員長
元教師。党丹波地区委員会副委員長

生活相談地域 篠山町(旧)西紀北
大芋 福住 村雲 西紀北 雲部 日置
後川 城北 畑 八上 岡野 篠山

日本共産党 丹波篠山市議会議員

前田えり子

ささやま医療センターを守ろう

地域医療の中核を担うささやま医療センターの存続問題が、住民に不安を広げています。兵庫医科大「ささやま医療センター」は、昨年12月、約5・8億円の赤字になることを明らかにしました。市に「年間7・6億円の補助金」を打診しています。現在(2022年度)の市の助金は、合計1・8億円強で、あと約5・

8億円の積みが必要で、大変厳しい状況には間違いありませんが、市民の命を守るのが第一です。市長も「あらゆる方向から取り組む」と明言しています。医療センターの存続のため日本共産党の前田えり子は市民のみなさんと力あわせて頑張ります。

高校統廃合ではなく少人数数学級の実現を

県教育委員会は、少子化で定員割れがつづいている、県立高校統廃合計画を発表しました。日本共産党の前田えり子は一方的な統廃合には反対です。

市内の3校はいずれも特色ある教育をおこなっています。3校を存続して、少人数数学級に踏み出すべきです。



人のいのち・くらしを大切にします

- ・学校給食無料、奨学金拡充をすすめます
- ・子どもの医療費の高校生まで、完全無償化実現を
- ・高すぎる国保税を引き下げます

- ・介護保険料の軽減・減免を勧めます
- ・県下一高い水道料金の引き下げを
- ・老朽化している高浜原発はただちに廃炉に

金裏金問題 自民党を 説明

- 「しんぶん赤旗」のスクープがきっかけで明るみに
- 裏金議員はひとり残らず国会で証人喚問を
- パーティー券購入を含む、企業・団体献金の全面禁止を

岸田政権 大軍拡・増税ノリ、消費税5%減税を



なくてはならない、日本共産党の2議席

昨年の補欠選挙で日本共産党は2議席となり、本議会でも代表質問ができるようになってきました。

一般質問の回数も増え、市民の切実な要求を議会に届ける力は大きくなりました。

日本共産党の議員は市政で市民にとって不十分なところを徹底的にたたかっ

て、ひとつひとつ実現めざしてたたかっています。

医療センター存続の願いは前田えり子へ



議会に押し上げていただき、16年がたちました。市民のみならず、皆さんに支えられ、頑張ることができました。

国民健康保険税や介護保険料・利用料の引き下げ、制度の改善を求めてきました。子どもの医療費は高校卒業までの無料化を実現しました。

料化を実現しました。帯状疱疹ワクチンの助成が実現します。県下一高い水道料金の引き上げを許さず、消費税8%から10%への増税時には増税分の引き下げが行われました。

日本共産党 丹波篠山市議会議員

前田えり子

要求実現にがんばりました

- 市民に負担を押し付けてきた「篠山再生計画—行財政改革」に反対。市民の暮らし・福祉最優先の改革を求めてきました。
- 国民健康保険税や介護保険料の引き下げ、制度の改善を求めました。
- 子どもの医療費助成—高校卒業まで無料化を実現しました。(高校生は入院のみ)
- 県下一高い水道料金の引き下げを求めてきました。
- 小学校の跡地活用など地域活性化のため、市民のみなさんと一緒に考え活動してきました。
- 地域公共交通の充実を求めてきました。
- 身近な生活相談の解決に努力してきました。
- 帯状疱疹ワクチン接種助成を実現しました。
- 「子どものために保育士配置基準の引き上げと、労働条件改善による保育士の増員を求める意見書の提出を求める請願」「健康保険証の存続を求める意見書提出についての陳情」について、採択に向けて頑張りました。



前田えり子さんを応援します

- 岡前 昌喜 (小川町)
- 山田 紀子 (東本荘)
- 橋元 日出美 (東岡屋)
- 山崎 恵美子 (川阪)



左からこむら潤党県政委員長、山田きよし市議、前田えり子市議、穀田恵二衆院議員



穀田恵二 衆院議員の訴え

(3月23日、演説会より)

2人の議員は市政で住民の生活を守るために足りないことは徹底的にたたかって、一つ一つ前進させるために力を注ぎました。2人になることでさらに要求実現を前進させてきました。「医療センターを守るためには2人の議員が必要」とどんどん市民に語って支援の輪をひろげてください。